

Jean Kristeller 博士（インディアナ州立大学心理学部教授）招待講演

健康と “Spirituality”

坂入 洋右

“Spirituality” and Health

SAKAIRI Yosuke

1. 招聘の背景と目的

“Spirituality” は、日本人にとって理解が難しい概念である。そのまま「スピリチュアリティ」または「霊性」と訳されるが、自然科学より哲学や宗教の領域に近い概念であるためか、数年前までは全く検討されてこなかった。ところが、1999年に世界保健機関（WHO）において健康に関する定義の改定を検討する過程で、「健康とは、身体的、精神的および社会的かつ霊的（spiritual）に良好なダイナミカルな状態を意味し……」とする案がまとめられた（その後、ペンディングになった）ことを契機に、「スピリチュアルな健康（spiritual well-being）」に関する研究が世界的に活発になった。欧米では、医学領域で、特に末期癌患者などへのターミナル・ケアにおいてこの概念が研究されており、心理学領域では測定尺度が作られている。そして、日本においては欧米での研究成果がそのまま導入されている。

この状況は、健康科学の研究における重大な問題点を典型的に示している。健康科学の研究領域が疾病の予防までに限定されている間は問題ないが、Spiritualityに限らずQOL（quality of life）や健康増進の研究に踏み込んだだけで、研究対象に価値観や文化的背景の違いが必然的に含まれることになる。何をもって「健康」とするかは文化や価値観によって異なっており、この領域では「世界共通の真理」という前提は成り立たない。欧米の研究成果を受け入れるだけでなく、日本におけるSpiritualityを独自に研究し、比較検討することが緊急課題である。現状のままでは、経済だけでなく日本人のSpiritualityまでアメリカのスタンダードで評価されることになってしまう。

そこで、健康科学の研究に関心を持つ筑波大学大学院博士課程体育科学研究科・人間総合科学研究科・修士課程体育研究科の院生に、欧米におけるSpiritualityの研究の現状に関する理解を深めてもらうことを主たる目的として、この領域で活躍している外国人研究者を招聘して講演会を開催することを企画し、筑波大学栗原資金の援助を得て実現した。また、講演会後の討論および日本滞在の体験を通して、日本的なSpiritualityの存在を外国人研究者に実感してもらうことも、ねらいのひとつであった。

2. 内 容

1) 講師：Jean Kristeller, Ph.D.

Professor of Psychology, Indiana State University

2) 演題：精神的健康におけるスピリチュアリティ及び癌患者のケアへの適用（Spirituality and adjustment to cancer and serious illness.）

3) 日時：2002年6月27日（木）14時～18時（講演2時間、討論2時間）

4) 会場：筑波大学体芸中央棟56B

5) 参加者：筑波大学体育科学系教員3名、他大学研究者3名、筑波大学大学院博士課程体育科学研究科・人間総合科学研究科・修士課程体育研究科大学院生12名

6) 内容：まず、SpiritualityとReligionを識別して、特定の宗教に限定しないQOLの一側面としてのSpiritualityの特質を明らかにした上で、現代社会におけるSpiritualな側面のケアの必要性が、終末期医療

を中心に解説された。次に、死の問題や生きる意味の問題などに直面した人に対する援助者の有効な対応の方法が具体的に論じられ、Spiritual な問題に適切に援助者が対処できるようにする教育プログラムを開発してその有効性を検討した研究 (The OASIS Project) が紹介された。そして、Spiritual な側面への援助が抑鬱を軽減し QOL を向上させたデータが示され、健康増進における Spirituality の意義が論じられた。

3. 成 果

豊富なデータに基づいて Spirituality に関する研究の現状が紹介され、具体的な援助方法が紹介された今回の講演は、Spirituality に関する参加者の理解を深める上で非常に有益であった。講演後の活発な質疑応答の後、演者を囲んでの討論が2

時間続いた。

また、共同研究の計画が話し合われ、今後日本語版の Spirituality 尺度の開発を推進することになった。日本語版の開発方法として、単なる英語版の翻訳ではなく、日本における尺度を開発した後に比較検討することが確認された。

4. 補 足

外国人研究者に日本的な Spirituality の存在を実感してもらうというもうひとつの目的のために、講演後の滞在において神社や禅寺を案内するとともに、筑波山を散策した後に私費で温泉に招待した。欧米人において Spiritual な体験の頻度が教会に通うことと関係があることから、日本人の Spiritual な体験の場が神社や寺であると思われるが、山歩きの後温泉につかって「ああ、ありがたい」という体験の方が、日本人の Spirituality の実感に近いことを伝えた。